

企画展「むかしの人はどんな道具を使っていたの？」

会期 2014年4月1日（火）～10月13日（月・祝）



前期展示出品目録

前期展示 2014年4月1日（火）～7月6日（日）

本展では、小学校3・4年生の社会科の授業単元に合わせて、当館収蔵の民俗生活用具（民具）を展示し、それぞれの用途や歴史に加え、道具の変遷についても分かりやすくご紹介します。

「衣食住」を主体とし「昔の風景」「遊」「商」「農」「年中行事」のゾーンに分けて展示し、ちゃぶ台を中心とした居間の風景も再現しました。

<高岡写真展 ～昔の風景と子供たち～>

No.	資料名称	点数	寸法	備考	寄贈者名等
1	写真「高岡山瑞龍寺」	1	-	明治期の瑞龍寺。	当館蔵
2	写真「高岡駅」	1	-	大正期の高岡駅前。	当館蔵
3	写真「児童の給食」	1	-	昭和6年（1931）の児童の給食の様子。	当館蔵
4	写真「校舎と子供たち」	1	-	昭和初期の太田小学校を背景に、子供たちの集合写真。	当館蔵
5	写真「開町350年・市制70周年記念行事 高岡まつり」	2	-	高岡開町350年と高岡市誕生70周年を迎えた昭和34年（1959）に行われた高岡まつりの様子。	当館蔵

<子供たちの遊び道具>

No.	資料名称	点数	寸法	備考	寄贈者名等
6	ブリキ製玩具	8	-	ブリキ製でバイクや汽車などの玩具。ゼンマイを巻くなどして動かす。	神保成伍氏蔵
7	羽子板	3	-	羽根を打って遊ぶ道具。鑑賞用の羽子板は厚紙で形を作った後、布の中に綿を入れて盛り、板に貼り付けたものである。	中井七郎氏寄贈
8	玩具「高岡獅子頭」	1	奥行19.0×幅32.0×高24.0	黒の獅子頭。高岡獅子頭は、富山獅子頭や祭礼の獅子舞を玩具化したもの。高岡仏師が余技として作るようになった。高岡仏師を継承した為中為男氏の昭和48年（1973）作。	当館蔵
9	郷土木製玩具	13	-	山形県鶴岡市・神奈川県鎌倉市・岐阜県高山市・香川県高松市など全国の木製の玩具。	当館蔵
10	郷土土人形	5	-	土を焼いて作った伝統工芸品。胡粉（貝殻の粉）を付け、泥絵具で彩色する。宮城県気仙沼市などの土人形。	当館蔵

<商売の広告>

No.	資料名称	点数	寸法	備考	寄贈者名等
11	チラシ「日立テレビ」	1	縦36.4×横25.8	日立製テレビの全国公開テストが高岡で行われた際の広告。高岡ステーションビルが完成した昭和40年代以降のもの。	当館蔵
12	広告「矢野動物園」	2	-	明治後期に発足した矢野巡回動物園の広告。動物のリストと動物を描いたものである。矢野巡回動物園は昭和3年（1926）まで営業した。	当館蔵

<遊び道具のメンコ>

No.	資料名称	点数	寸法	備考	寄贈者名等
13	メンコ	37	-	メンコ同士を当てるなどして遊んだ。昭和20年代の丸メンコと昭和40～50年代の角メンコ。	神保成伍氏蔵
14	メンコ綴	1	縦19.8×横25.9	大小11点のメンコがセットになっている。「鉄人28号」や「鉄腕アトム」などが描かれている。	神保成伍氏蔵
15	豆本	3	-	昭和50年代の菓子の付録。「にんじゅつ」「月光仮面」「ちびまる」の3点。	神保成伍氏蔵

<田んぼの農具>

No.	資料名称	点数	寸法	備考	寄贈者名等
16	ラチ打ち機	1	奥行138.2×幅51.4	田植えの後、雑草を刈り取る農具。「ラチ」とは植えられた稲と稲の間の空間のことを指す。	当館蔵
17	馬鋤	1	奥行80.1×幅81.3×高64.4	荒起こしの後に水田の雑草を刈り取る農具。牛や馬に引かせた。マグワやマンガとも。	当館蔵

<服とはき物>

No.	資料名称	点数	寸法	備考	寄贈者名等
18	もじり	2	-	巻袖の別名（モジソデ・ムジリ・ネジリとも）。袖下を斜めにねじり上げた形からきた呼び名。	吉田元太郎氏寄贈
19	草鞋	1	幅8.8×長24.4×紐46.3	長距離を歩くための履物。長い緒を使って足首に巻いて固定した。稲のワラで作られている。	邑本順亮氏寄贈
20	下駄	1	奥行23.5×幅11.0×高7.5	晴れた日も雨の日も履くことができる履物。木製。男性用。歩くと駒（馬）の足音のように聞こえたことから、駒下駄とも呼ばれた。	横山宏平氏寄贈
21	足駄	1	奥行22.1×幅9.5×高13.0	底の歯の部分の部分が長く、雨の日履いた物。木製。女性用。	神保成伍氏寄贈

<食を支えた道具>

No.	資料名称	点数	寸法	備考	寄贈者名等
22	写真「酒樽」	1	径34.0×高20.9	酒を入れておいた道具。祭礼などの行事で酒がふるまわれた。木製。	小竹勇一氏寄贈
23	写真「囲炉裏と竈」	1	-	重要文化財武田家住宅（高岡市太田）の台所風景。	当館蔵
24	羽釜	1	径29.7×高23.8	ご飯を炊いたり、お湯を沸かすための道具。竈に引っ掛ける鏝が羽根のように見えることから「ハガマ」と呼ばれた。	宮野宗雄氏寄贈
25	SW式自動電気炊飯器	1	径27.4×高21.8	電気炊飯器の前身。昭和10年代製。木製のオヒツの底にアルミ板が貼り付けられ、電気差込口がある。	荒田みさを氏寄贈
26	電気炊飯器	1	径26.7×高26.5	昭和30年代のナショナル（松下電器産業株式会社）製。タイマーを使用して炊飯できた。	日尾清作氏寄贈
27	自在鉤	1	縦9.5×横36.3×厚4.9	イロリの上に吊るし、鍋や鉄瓶などを掛けるもの。鯉の彫刻が施されている。	当館蔵
28	鉄瓶	1	径16.6×高21.2	お湯を沸かす道具。イロリや火鉢の中で、五徳にのせて使われた。鉄製。	本沢義則氏寄贈
29	写真「徳利」	1	径22.2×高29.8	酒や醤油を入れた容器。陶製。本資料は酢を入れるためのもの。	新原昭二氏寄贈
30	卓上コンロ	1	幅26.0×高7.3	鍋などを温めるための持ち運び式の卓上コンロである。昭和30年代のナショナル（松下電器産業株式会社）製。ガスホースからプロパンガスを供給して着火させた。	高岡ホテル寄贈

31	菓子箱「森永ミルクキャラメル」	2	-	森永ミルクキャラメルの菓子1箱と、その箱60個を収納できた大箱である。	神保成伍氏蔵
----	-----------------	---	---	-------------------------------------	--------

<年中行事>

No.	資料名称	点数	寸法	備考	寄贈者名等
32	武者人形	1	奥行47.0×幅56.0×高79.0	端午の節句の際に飾った人形。五月人形とも呼ばれる。腰に刀を差し弓を持った姿である。	神保成伍氏蔵
33	御座敷幟	1	奥行5.5×幅74.0×高114.0	端午の節句の際、座敷に飾った。加藤清正や豊臣秀吉の長幟、鯉幟などがある。	神保成伍氏寄贈
34	獅子舞衣装	2	-	獅子舞の際の獅子役の手ハンテンと天狗役の槍。	下二上青年団寄贈
35	獅子頭	1	幅58.6×奥行42.6×高44.2	高岡市内免神明町の獅子舞で使用された黒獅子。昭和26年(1951)井波の彫刻家・野村清雲(清太郎)の作。	高岡市内免神明町獅子舞保存会寄贈

<身近な生活道具 I >

No.	資料名称	点数	寸法	備考	寄贈者名等
36	写真「提灯」	1	口輪19.7×径44.6×底輪19.6	中にロウソクを入れて明るくした道具。火袋は折り畳みが可能である。	米森米太郎氏寄贈
37	写真「火鉢」	1	径31.6×高29.6	部屋を暖めたり、お湯を沸かす道具。中に灰を入れ、炭に火をつけて使用した。	五嶋孝一氏寄贈
38	幻灯機	1	奥行28.1×幅18.4×高28.2	ロウソクやランプの明かりで、ガラスに描かれた画像を映し出した。レンズ、ガラスを装着するスライド、光源から発生する熱を逃がすための煙突がある。	室崎信一氏寄贈
39	行灯	1	幅25.5×高33.3	照明道具。持ち運びができる。油の入った皿に、綿糸などで作った芯を入れて点火した。貼られた紙は明るさを調節したり、風が入り込むのを防いだ。	大場良吉氏寄贈
40	竿秤	1	長78.5	てこの原理を利用する秤。竿の先端に量る物を吊るす鉤と手で支えるための紐があり、おもりを左右にずらして量る。	当館蔵
41	上皿竿秤	1	幅54.8×奥行25.0×高27.6	重さを量るために使用された。上皿・目盛竿・おもり台で構成され、おもりは9点ある。重さを量る際は、物を上皿に載せ、おもり台におもりを加える。竿が水平に達した際に、目盛竿の送りおもりを移動させ、微調整をして計量した。	藤平和子氏寄贈
42	上皿自動秤	1	幅21.0×奥行25.6×高27.2	上皿に物を載せて量った。最小2匁(10g)、最大800匁(3kg)まで量ることができる。	朝日勢津子氏寄贈
43	写真「湯たんぼ」	1	奥行16.9×幅29.8×高15.8	中にお湯を入れ、手足や体を温める道具。やけどしないよう布に巻き、布団の中に入れた。陶製。	神保成伍氏寄贈
44	電気掃除機	1	幅23.8×高129.2	部屋などを掃除するために使用された電化製品。布の袋にごみが回収された。昭和12年(1937)まで営業していた大井電気株式会社(現・株式会社タンガロイ)製。	藤平和子氏寄贈

<再現、ちゃぶ台の間>

No.	資料名称	点数	寸法	備考	寄贈者名等
45	柱時計	1	奥行9.8×幅27.3×高42.3	柱に掛けられた時計。ゼンマイで動き、調速のための振り子がある。	個人蔵
46	ちゃぶ台	1	径74.3×高25.6	円形の食事用の座卓。お膳を使用していた食事からちゃぶ台を囲む食事により、一家団らんの形が浸透していった。	当館蔵
47	醤油差し	2	-	醤油を料理に注ぐ道具。	神保成伍氏寄贈
48	アルミ製水筒	1	縦10.4×横10.6	子供用。昭和35年(1960)～同36年頃に使用された。学校の遠足や運動会などに持って行った。その後、プラスチック製やステンレス製のものに変わっていった。	藤井喜代乃氏寄贈

49	たんす	1	奥行32.2×幅76.2 ×高80.3	物を収納する引き出しや扉を備えた家具。木製。服や道具を入れていた。	当館蔵
50	黒電話	1	奥行22.7×幅14.7 ×高13.0	昭和40年代のダイヤル式の黒色の電話。	当館蔵
51	竹かご	1	奥行10.4×幅17.2 ×高41.2	瓶を入れて持ち運んだ竹製のかご。ビール瓶などを入れた。	神保成伍氏蔵
52	ラジオ	1	奥行14.8×幅26.3 ×高18.1	無線通信を使って音声を受信する道具。ナショナル（松下電器産業株式会社）製。ラジオから様々な情報を入手できた。	高橋敏治氏寄贈
53	電気ポット	1	口径8.7×底径 10.9×高18.8	電気でお湯を沸かす。昭和20～40年代の東京芝浦電気（東芝）製。	日尾清作氏寄贈
54	雑誌『チャイルドブック』	2	-	昭和35年（1960）の1月号と3月号。児童雑誌で、保育園での教材として活用された。	当館蔵

<身近な生活道具Ⅱ>

No.	資料名称	点数	寸法	備考	寄贈者名等
55	写真「配置薬箱」	1	縦17.0×横20.5× 高10.4	配置薬（置き薬）を収納していた。配置薬は江戸時代以来、富山で盛んに行われた。始めに薬を配置し、使用した分の薬の金額を後払いした。	当館蔵
56	写真「手燭」	1	奥行19.8×幅10.1 ×高13.2	ロウソクを立てて持ち運ぶ照明器具。	米澤暢晃氏寄贈
57	火のし	1	径12.7×長37.2	中に炭火を入れ、その熱で布などのシワをのばす道具。先を収納する布袋も付属している。火のしは江戸時代から昭和中期まで使用された。	五嶋孝一氏寄贈
58	炭火アイロン	1	奥行14.8×幅7.5 ×高16.8	火のしと同様に炭火を使用した。鉄製。熱が伝わらない木製の取手・空気を取り入れる煙突・熱を出す空気穴がある。炭火アイロンは明治期より普及した。	室崎信一氏寄贈
59	蒸気（スチーム）アイロン	1	奥行15.1×幅8.3 ×高12.4	水を入れた吸入器を温めて、ゴム管を通った蒸気でシワをのばすことができた。電気アイロンの前身。英商店販売。スチームアイロンは昭和初期から普及し始めた。	邑本順亮氏寄贈
60	箱枕	1	奥行13.7×幅22.5 ×高17.5	寝る時に使った道具。江戸期に鬘を崩さないよう首をのせていたが、明治期以降も使用された。	大坪正夫氏寄贈

計 60件130点

凡例

※一部展示替えを行い、7月8日（火）から後期展示を開始します。

※寸法は、複数の資料の場合は省略し、写真展示の資料は原物の値をとっています。

引用

※大舘勝治・宮本八重子著『いまに伝える農家のモノ・人の生活館』（桂書房、2004）

参考文献

※文化庁編『民俗資料調査収集の手びき』（第一法規出版株式会社、1965）

※文化庁文化財保護部監『日本民俗資料事典』（第一法規出版株式会社、1969）

※日本民具学会編『日本民具辞典』（ぎょうせい、1998）

※岩井宏實監『日本の生活道具百科』（河出書房新社、1998）

※『砺波の民具』（砺波市立砺波郷土資料館、2006）

※岩井宏實監『絵引民具の事典』（河出書房新社、2008）

※『小学社会3・4上』（教育出版、2011）

公益財団法人高岡市民文化振興事業団 高岡市立博物館 （富山県高岡市古城1番5号）

TEL：0766-20-1572 FAX：0766-20-1570 <http://www.e-tmm.info>